



海軍技師恒川柳作外一名依願

免本官一件

名謹テ奏入

明治三十九年八月二十日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望室

内

閣

山官謹海
三七八
印

明治廿九年八月十七日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

海軍技師恒川柳作
長崎縣警視松崎惟氏
依願免本官

右依
願免本官

海軍技師 恒川柳作

明治三十九年八月十六日

海軍大臣齋藤實



海軍

辭職

少友初ナ辞レ此年、奉レアミ今日、至リ芳徳三年
 芳烟官没シ短少ナリ謂フカミ生來前柳ノ質
 加ルニ天資、駿鈍ヲ浮ヒ候、國恩ヲ重ア涓滴、微
 功ヲ有ルソシテアハニ立候、揚サル事ト唯才永年乃
 真ラ勤務シナム生來仰、上左先輩ノ庇陰指掌ニ
 おルモトツ在直激甚矣、多役等他、輒ア破費リ全
 フコレトク烟シ之次第、在直年、舞鶴立候、翁
 ニ搖スルナリ舞室、空土、羸弱、高セカシ、慮リシテ
 宗命解ニ得ニ心私ニ殊艱ヲ擲テ彼ノ地、殉セシ
 トモ期ニ赴任リ年、既、立屋在直、信也、至リ代
 徒、他ノ事無レテ身通セテ生來、前柳、生質

海軍

“暮、朝ノ险惡也、氣付ニ遇ラヌ、病ノ健、未ア傷ケレ
 光東傳、亦ナ連ノ記憶力大、誠近近耳、氣もアツウマ
 ドキ、宿病、ニ害ルニ助ル神経痛、病質シテシテ極度
 欲ニ難済、免モ、立ト身心、因體也、如キシテシテ要
 路、原稿、至麥位、立旦大ナラ被シ、毎ニ統リトシテ不
 安、念、甚、不叶、如シテ翌然破シ晴、スル、晝ミ上長、
 行松、罪也、而以、アカルノミアズア室、國政ニ奉シニ忠
 実ナル而以、アカル様ト作シテアリ此、辞表、捧至代久良、
 “遂、其破許シ難、猶御、御辱、皆蒙、佑助、生之、清、
 中經、自無、事、卫惶恐果

附記ナタクセリテ

海軍大臣、恒、柳仰

海軍大臣、恒、柳仰

福歎社

右高麗、生、日、宿、日、使、不、道、南、大、
氣、惟、土、生、化、之、未、有、子、國、之、未、有、一、性、
至、下、倭、麻、貨、好、義、之、名、後、無、跡、情、耶、東、接、
生、之、多、之、在、再、往、之、慢、性、要、下、倭、麻、貨、好、路、
夜、加、之、祝、國、助、神、酒、高、之、罕、夜、官、安、眠、而、之、往、
之、往、之、月、神、夜、示、甚、之、古、之、記、性、力、城、而、
生、之、外、不、堪、惡、惡、高、ト、福、歎、也、

是、日、中、御、连、三、

あ、事、を、勢、を、そ、そ、と、ま、

海

軍

四三

依願免本官

長崎縣警視松崎惟氏

右文官分限令第三條第一項第二號
前段ニ依リ謹テ奏ス

明治三十九年八月十六日

内務大臣原敬



内務省

めぐれず

241

辞職願

私儀多年奉職罷在候疏昨年未別終醫師
診斷書一通ノ病氣、罹リ治療相加ハ候得共
痊愈全快ニ至ラズ到底難堪職務現症ニ候間
職務御免疏被下度此既奉願候也

明治廿九年九月大日

長崎水上警察署長

長崎縣警總松崎惟氏

内閣總理大臣侯爵西園吉公望殿

第五號 痘 疔 斷書

長治縣警視

松崎惟氏

昭和四年十一月廿日

休病質 中等、
原因 因慢性喉頭及氣管支氣管炎而
症候 氣變、口渴、喉痛、時發熱、咳嗽、嘔吐、精神不振、體衰弱、記憶減退、耳聾、食欲不振。

乞予一月之假

手前

一經過一昨年十月以來本症ニ罹リ發歇常ナ

ラス迄再發セス

【處方】プロタルゴーン液塗布、食塩、重曹水吸

水入、次加里、耳底個見、根治を根浸、

杏仁水等、内服、

豫後長時日ヲ経サレハ平癒シ難シ

決 定到底劇職ニ堪ヒサルモノト認ム

右之通相違無之也

明治廿九年八月十一日

長崎市上荒屋町廿五番地平民

醫師 稲立牛牛病院長 大橋純

大橋

海軍

百三號

海軍技師恒川柳作仰願免本官
件別紙上奏書進達
明治三十九年八月十六日
海軍大臣齋藤 實



海軍

内閣大甲第
臣言書
五六三號

別紙長崎縣警視松崎惟民轉任ノ件
上奏書進達

明治三十九年八月十六日

内務大臣原 敬



内閣總理大臣候爵西園寺公望殿

卷一百一十五

46

別紙長寄縣齋覲松寄惟民
免官一件、至急。少司馬可
成連。縣齋奉手稿。右計
本有子亦及古休輕修也。
四月二十日
向柳大玉
秋東官

卷之三

白閣書記宿
中

卷之三

